

DC10の思い出 その2 すべりこみ搭乗

荒岡 衛

大学の同期の結婚式が兵庫県高砂市であった時、招待された仲間はほとんどが東京から新幹線を使って行った。一人日本航空に入った H 君は東京-大阪間は JAL に乗った。これは空席があれば年に何回か無料で日航機に乗れるという社員特典があるからだ。彼の話によると条件が厳しく、ドアが閉まるまで安心できないので閑散期でない限り、かなり時間に余裕をもっておかないと乗れない場合があるとのこと。実際 1983 年 8 月にそれを目のあたりにした。

当時九州電力の担当で東京-福岡を頻繁に往復していた。8 月 21 日は新小倉発電所で一日仕事をしたあと、博多駅前のホテルに泊まり翌日の朝 1 便で東京に戻り出社する予定だった。搭乗便は朝 7:15 発なので 6 時過ぎにはホテルを出る必要があった。ホテルに入ったのは午後 10 時過ぎで風呂に入って寝た。目覚ましをかけたはずなのに起きて時計を見たら 6:50 だった。支払いが済ませていたし、すぐ出発できるよう片づける習慣にしていたので、着替えてタクシーに飛び乗った。空港に着いたのが 7:03、もうだめですとなるところを頼み込んだら、受付の人は何とかまいしょうと対応してくれた。

待つこと数分で OK がでて、急いでくださいと搭乗口まで別の係員が誘導してくれた。そこで一組の親子とすれ違った。幼稚園ぐらいのその子がいうには「パパ、なんで降りなければならぬの」

パパが何と答えたかは記憶にないが、ピンときた。おそらく彼は JAL の社員で東京に行こうとしていたのであろう。空席があって行けると思って乗りこんだら、私がやってきたものだから、会社としてはお客優先、子供一人残すわけにはいかないから 2 人を降ろした。可哀そうなことをした、とはいえ私も仕事だしそこまでの内情は判らない。予約は取っていたから寝坊さえしなければあの子に悲しい思いをさせなくて済んだのにというところ。ちなみに席につくと隣は空いていた。この時の搭乗機が JA8548 ダグラス DC10 だった。

(807 字)